

## 花水樹賞

・ボランティアを基本とした花や緑の育成活動により地域社会に優れた実績を残した個人及び団体  
・積極的なボランティア活動を年間30日以上かつ2年以上継続し、他の模範となるもの



### 奥村 富雄氏/奥村 清子氏 (鞆川町)

**講評** 昭和61年に廃駅となった北陸鉄道小松線鞆川遊泉寺駅跡地に残る「う川古代桜」において、下草対策を兼ね、平成25年からお花見以外も楽しめるように花壇を設置し花を植え育てています。現在、歩道沿い90mに面したおよそ300㎡の花壇に咲く花は、そのほとんどが種から丹精込めて育てたものです。春・夏・秋を通して花が楽しめるよう試行錯誤を繰り返し、花の時期には、2日に一度の頻度で手入れに通い、一年を通してみることができるところに育てました。また、地元での活動に留まらず、土居原町にあるボンネット型特急電車展示場所での花のおもてなしなど、多岐に渡って活動されています。

## 田谷特別賞

・部門を問わず作品が優秀であり、大勢の人の和を創出する役割を持つものやメンバーが連携して困難を克服し活動を継続しているもの



### 空港通り花の会

**講評** 北陸の玄関である小松空港利用者の方々をおもてなしすることを目的として、昭和60年4月20日に設立。小松空港に近い浮柳町の道路沿いに設置された総延長325m余り・8箇所の花壇を、十数名のメンバーで、春は菜の花、夏はマリーゴールド、ニチニチソウ、サルビア、ペゴニアと毎年およそ5,000株の花苗を植えて、水やり、除草、追肥等を丁寧に丹精込めて行っています。現在、高齢化によるメンバー減少などの問題に直面しつつも、連携・分担し、問題を乗り越えながら32年目を迎えたすばらしい活動に対し、敬意を表し、今後も観る人を元気にしてくれる花を育てる活動に期待し、田谷特別賞をおくりします。



### 花とふれあいの未知づくり協議会

**講評** 平成26年から、道路美化活動の一環として、春と秋の年2回、国道360号の園町交差点から細工町交差点間の800mの植樹帯において、地域町内会、沿道企業、智光幼稚園、(一社)小松能美建設業協会、小松市上下水道局で構成された活動員の皆さんが、四季折々の季節を感じる花を植え、管理しています。花植えには、120人を超える活動員が参加し、花のまちづくりを顕著に実践されています。年々、活動賛同者が増えており、今後のますますの広がりを期待し、田谷特別賞をおくりします。

### 審査員長講評

## 審査員長 和田 博幸氏

公益財団法人 日本花の会 主幹研究員  
樹木医

暑い最中での花壇審査ですが、花壇づくりに熱心に取り組まれている方々の成果が、美しく咲く花となって見られるものですから、審査員一同は、そのような花と会えることを期待しながら審査させていただきました。

審査で気づいたことは、花のコンクール大賞に関係なく、街角や個々の家の庭先に、総体的に花が増えたように感じたことです。平成26年にこのコンクールは始まりましたが、4年間で回を重ねるにつれ、市内にフローラルこまつの広がりと定着が確認できました。それから、市からの活動助成に加え、自分たちでも予算を工面して花壇を広げたり、初めて植える種類の花づくりにチャレンジしたりなど、活動のレベルアップを示す例も見られました。また、書類を拝見すると、土づくりに咲き終わった花や雑草、落ち葉をたい肥化している例も多くありました。このことは環境にやさしい取り組みが定着していることでもあります。その結果、土づくりに成功し、見事に咲く美しい花々が、市内のあちこちで見られました。

これからも花の仲間を増やし、子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで一緒になって取り組めるような活動に発展し、花の咲く街角や庭先が増えることを期待しています。

# つーらるこまつ

花がく 壺

## 2017夏花のコンクール大賞

